

乙訓圏域障がい者自立支援協議会
令和3年度 第1回人材確保・育成部会 会議録

日時 令和3年6月28日(月) 10:00~11:30

場所 乙訓福祉施設事務組合大会議室(一部オンライン開催)

出席者 12名

乙訓障がい者基幹相談支援センター、乙訓ひまわり園地域連携室、向日市社会福祉協議会障がい者地域生活支援センター、こらぼねっと京都、大山崎町社会福祉協議会、乙訓若竹苑、障がい福祉センターあらぐさ、障害者支援施設晨光苑、乙訓の里、乙訓保健所福祉課、長岡京市障がい福祉課、大山崎町福祉課

欠席者 2名

長岡京市商工会、向日市障がい者支援課

事務局 2名

傍聴 1名

配布資料 ・次第

- ・令和3年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会 人材確保・育成部会 委員名簿
- ・令和2年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会 人材確保・育成部会準備会 活動報告
- ・「NAGAOKAKYYO かいごふくし就職フェア」ちらし
- ・「FUKUSHI 就職フェア KYOTO」ちらし
- ・「もとむ!求人企業」ちらし
- ・「だれかを照らすフクシゴト」ちらし
- ・「きょうと福祉就活サポートプログラム」ちらし
- ・「介護・福祉のお仕事 相談&面接会」ちらし

会議概要

1 事務局挨拶

事務局 ・定刻になったので第1回人材確保・育成部会を始める。
・本日保健所で開催予定だったが、対面人数を減らしてオンラインと併用で会議設定ができるように、この会議室と別室を使って試行をしている。今後コロナ感染者数によって適切な開催ができるようにしたい。通常2週間前に開催通知をしているが、状況を見て開催方法を決定するので、変更する場合は会議の2、3日前に連絡する。

- ・ZOOMで参加の場合、声が届かないのでマイクを3、4人に1本置いている。発言後はタオルに消毒液をふりかけてマイクをふいてほしい。
- ・受付で健康チェック表を記入の上入室をお願いしたい。チェック表は1か月あまり事務局で保管し異常がなければ破棄する。
- ・傍聴は、ホームページにも書いているが、当面5人程度に絞りたい。傍聴希望の方は事前に事務局にお知らせいただきたい。

事務局 ・初めての部会となるので自己紹介をお願いしたい。

※ 各自自己紹介

事務局 部会長と副部会長を決める前に議事録について提案したい。

・協議会は、誰にでも「わかりやすい情報公開」を進めていくことが必要である。ホームページ掲載の委員会や各部会記録を読み、興味を持って傍聴に来ていただいたり、協議会に関わっていただきたいと思う。このため、今後の議事録の作成に当たっては次のように変更したい。

・発言者は、主旨を最初に述べる、最後に主旨を繰り返す等、自身の明確な意思表示をお願いしたい。一言一句の反訳はせず、まずは発言者を記名して発言要旨を箇条書きにまとめ、発言者に確認を取る。1週間程度で返ってきた段階で固有名詞は削除し、「部会長」「副部会長」「委員」等として掲載する。今までは反訳をして、いらぬところを少しはぶいた形でホームページに掲載していた。本当の箇条書きというよりも語尾を「なにになにである」など言い回しを簡潔にして掲載したいと考えている。

・事例検討等の研修的な内容については、議事録を作成しない。これは従来通りである。

・以前同じような提案をした時に、関係者団体から反訳掲載を要望されたと聞いているので、今年度は変更の了解をここでとるのではなく、この方向でさまざま検証しながら検討を重ねたいと考えている。どのような形に落ち着くかはっきりしないので、当面、医療的ケア委員会と就労支援部会は今までの形で掲載し、この人材確保・育成部会だけ7、8ページにまとめて作成し、いろいろな方に見ていただいて検討したい。すみやかに掲載し協議会での議事内容に興味をもたれる方に早く届けたいという思いである。事務局ではこのように考え、運営委員会でも了承されている。この場でも、ご意見があれば伺います。

2 部会長・副部会長の選出について

事務局 ・どなたか立候補があれば挙手をお願いしたい。

・なければ、運営委員会で人選し、部会長をひまわり園の森井委員、副部会長を向日市社協の落合委員をお願いしたいということになった。ご本人にも了解をえているのだがみなさんよろしいだろうか。

一同 ・反対の意見なし。

3 昨年度の振り返りを本年度の進め方について

部会長 ・「令和2年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会 人材確保・育成部会準備会 活動報告」を確認し、振り返りたい。

- ・(1～4について、資料に基づき説明)
- ・ここまでで質問等あればお願いしたい。

・5番以降は今年度取り組む内容になる。その前に、昨日開催された京都府主催の就職フェアに乙訓の事業所も参加されているので様子など共有し、今年度について考えたい。

・この就職フェアは京都府全域を対象にした最大級のもので年2回開催される。1回目は就職活動が解禁になる3回生の3月。2回目は4回生の5月か6月。去年はオンラインで開催となったが全然学生は集まらなかった。今年は緊急事態宣言が解除された3月に実施できた。その時は、みやこメッセで約400人の来場があり、久しぶりに盛況で手応えがあった。コロナで就職活動が思うようにできなかつたので対面で話が聞けるとあって多数の参加になったと思う。2回目を5月に予定していたが、緊急事態宣言発出で延期となり昨日開催になった。250名の参加にとどまったようだ。学生は少なく一般求職者が多かった。参加事業所の方の印象を聞きたい。

委員 ・人は少なかったようだ。もっとイーゼルなど使ってアピールすればよかったと聞いている。

委員 ・密にならないように会場全面を使っていたので広くて余計に来場者が少ないように思った。
・服装自由であっても学生はスーツ姿なのだが、その割合が低かつたので、中途の方が多い印象を受けた。

・学生でも1・2回生で企業研究目的のようだった。

・私の法人のブース訪問は5名。うち新卒2名、中途3名。3名が高齢希望、2名が障がいも考えるところのことだった。過去多い時は20名以上あったので、来場者数の減少と法人としての取り組みの弱さもあると思う。

委員 ・来場者が少ない印象だった。

・ブース訪問は8名で、新卒1名、3回生が1名、あとが一般求職者だった。男性を求人しているが少なく、年齢が40から60だったので年々その傾向が強くなっているように思う。

・学生の選択肢として順位が高いのは何かを探りたい。隣のブースは週休3日を打ち出していたので福利厚生の実がアピールポイントになるのか。

・実習でつながっている大学の学生がゼミで紹介されたと言って訪問してくれた。

・ブースの工夫、冊子の内容など検討課題があるかと思う。

・法人としては毎年参加しているが私は4年ぶりで、雰囲気が変わっていたように感じた。以前は人が並んでいるブースが多かつた。高齢者事業所は学生が押し寄せていたが昨日はなかつた。

部会長 ・昨日はコロナで並ばないように工夫していたと思う。4年前は高齢の方が来やすかつたが、今は高齢がしんどくて障がいの方がまだ人気があるようだ。

副部会長 ・京都府の最も大きなフェアがなぜ来場者が少かつたのか非常に気になる。これから各圏域で同様のフェアが行われるにあたり分析の結果を府社協に聞きたい。

・私の法人は今年になって現場職には人が集まりかける傾向がある。相談や事務には人がこない。今までと逆になり不思議な現象となっている。

部会長 ・集客が伸びなかつたのは開催が延期になったからではないかと思う。学生の就職活動は6月

末にはひと区切りついて内定がでている。5月なら状況が変わったのではないか。就職活動が年々早期化している。

事務局 ・初めてだったが、人が少ないイメージだった。各ブースに尋ねると訪問は少ないようだった。
・出展のしぼりとして、認証法人であること、5万円の出展料が必要だと京都府福祉協議会にお聞きした。大学への広報もしているとのこと。7月11日に長岡京市主催のフェアもあるが、府社協としては協力の形となり料金はなしとのことだったが詳しく聞きたい。

委員 ・「NAGAOKA かいごふくし就職フェア」というイベントを通じて介護や障がい部門に興味をもってもらいたい。来場者数はよめていない。費用は、長岡京市の負担として保育ルーム設置に伴う保育謝礼を高年齢部門でとっている。施設は公民館を利用するので無料、広報は市のホームページなどで行うので無料。府社協の負担としては、広報紙にちらしの挟み込みをお願いしたためにシルバー人材センターへの委託料が少しとコロナ感染予防の為の備品をお願いしている。
・長岡京市でも乙訓圏域でもはじめての開催となる。

委員 ・私の事業所が出展するのははじめなのでアピール方法など教えてほしい。
・ヘルプ分野とのことなので居宅介護とガイドヘルパーの募集をする。放課後等デイサービスの人材が少ないので、ヘルパー希望の方で保育、療育、障がい児に興味があればそちらをお願いしたいと思っている。
・ヘルパーも高齢化しているので、せめて40代がどれくらい来てくださるか。放課後や土日に活動できる方を求めているが主婦層は動きにくい。求める人材と働く希望時間があうかどうか不安だ。

部会長 ・学生の関心は継続して児童が高い。児童から始めて大人の方へ行く流れがいきやすいように思うのでとっかかりは児童がいいかと思う。児童対象なら福祉だけでなく保育の学生もいる。

委員 ・心理希望で子どもの発達をやりたい学生は多いが、実習等で現実をみると厳しいと思う人が多く就職につながりにくい。実習の受け入れをしているが児童が人気と言われるとあまり手応えはない。

委員 ・先日のフェアとやり方を変えるなど特に話していないが、新卒がほしいと常々考えている。

委員 ・居宅職員を求めているが、募集をかけても一番難しいところだと思う。私の事業所は生活介護や就労継続支援B型からの内部異動で確保している。居宅、訪問系の枠での就職フェアには期待している。

委員 ・私の事業所は事務局で採用をしているので現場で何かをすることはなく特殊だと思う。

部会長 ・長岡京市の事業所が対象なので向日市の事業所は今回参加できない。

委員 ・周知はどのようにされたのか。

委員 ・広報誌へのちらしの挟み込みとホームページに掲載した。

委員 ・私の社会福祉協議会が、6月1日の広報大山崎に折り込みで、デイサービスとヘルプ職員時間給の職員募集をした。7000世帯対象で費用は4万円。問い合わせは電話1本だった。これからどうしようか悩んでいる。

部会長 ・向日市や大山崎町も共同開催する可能性はあるだろうか。

委員 ・可能性としてはある。大山崎町単体で開催するのは難しいので一緒にさせてもらいたい。

部会長 ・乙訓圏域2市1町で動くことが多いので、できれば一緒に考えていただけるとありがたい。単

体ですと来場者も少ない。7月開催の結果を見て次年度の形を検討されると思うが、乙訓で開催となって人材部会として一緒に考えることができたらうれしい。

事務局 ・配付資料のとおり、平成29年3月に商工会とハローワークで「乙訓地域で働きたい方のための就職フェア」をバンビオで開催されている。中小企業が多く、就労継続支援A型事業所の出展もあった。当時、障がい者雇用について話をさせてもらっていた。長岡京市商工会局長に今後の開催はどうかとお聞きしたら、2、3月にやりたいと思っているがコロナの関係でどうなるかわからないとのことだった。開催があれば乙訓の福祉でブース出展も可能とのことなので期待したい。

部会長 ・商工会企画となると、福祉対象とはまた違う視点となるので新しいアプローチができそうだ。商工会からも委員になっていただいているのでうまく連携したい。

部会長 ・乙訓でフェアをやるにしても京都府との連携の必要がある。人材研修センターの所長が今年度代われ、保健所を通していろいろと連携していきたいがどうだろうか。

委員 ・情報交換は可能なので連携していきたい。

部会長 ・京都府のフェアは年2回やっているが、南部フェアもある。乙訓、山城北・南の事業所を集めて城陽あたりで行っている。集客が悪く見なおしが必要となっている。ローカルな福祉フェアも厳しい。地元の人材なので来場者が少なくてもマッチング率は高いかもしれない。京都府では地域での福祉フェアにも力を入れるとのことだったので連携したい。

・福祉職場就職フェア実行委員会のちらしについて、年間を通じて、このような企画も府社協の人材・研修センターでされている。年度初めに参加希望のお知らせが来ていたと思う。学生は少なく一般が多い。

委員 ・就職フェアに出展して、実際に就職につながる人はどれくらいだろうか。

委員 ・昨日のフェアでは採用要項を一人に渡した。過去にはこのフェアで数名採用した。この他にも成果はある。

委員 ・3月のフェアでブース訪問してくれた方が5月から就労している。新卒はつながらなかった。過去はフェアで顔つなぎができて、法人説明会に来ていただいて採用につながった方は何人かいる。

委員 ・今回に関しては8名来たが手応えがなかった。過去には就職につながった認識はある。

部会長 ・私の事業所もよく出展しているが、昨年度の準備会でも話したが、縁をつくる意味合いが大きいと思っている。ブース訪問の人数がまず母数になって、そこから職場見学に半分、採用試験に応募するのはさらに減る。それでも最初の母数からは1割ぐらいは来ているように思う。30人のブース訪問で内定に3人あれば御の字。出会いをいかに増やすか。フェアよりも前の段階の出会いが増えていて、実習・インターンシップ・バイトを取りこぼさないようにしたい。フェアスタートでは遅いと最近を感じる。絶対成果はある。

部会長 ・ここまでの情報をもとに、今年度の取り組みについて確認したい。

(1) 圏域でのインターンシップ受け入れの仕組みづくり

・縁をつくることである。実現すれば全国的にも先進的な取り組みになる。京都新聞等マスコミへの広報活動をし、それが学生に伝わり裾野が広がり、「乙訓っておもしろそう」という流れができるといい。大学の先生も地域での取り組みに感心をもってもらいたい。仕組みづくりの具体的なことは決まっていないのでこの部会でやっていきたい。

(2) 転職者向けセミナーの検討

・商工会と連携し、再就職先に福祉もかかわりたい。セミナーが開催されれば、福祉事業所がひとつずつブースの出展は無理なので、自立支援協議会として福祉に興味をもってもらえるための出展を考えたい。

(3) 圏域内法人による人材育成方法の共有

・人材育成という視点でいくと、昨年度まで自立支援協議会事務局で行っていた新任職員連続講座をこの部会で引き継いでやっていきたい。3週連続でほぼ同じ参加者で行い、法人間の若手職員がつながる機会にもなるので積極的に活用してほしい。横のつながりが離職の抑止力にもなると考えられる。

事務局 ・入職3年から5年の方を対象に開催していた。今年度から人材確保・育成部会ができたので一緒にさせていただきたい。今年度は、訪問介護ステーション、こども発達支援センターと支援校進路指導の方からその中身、悩み、課題等を話していただくことにしている。日程は10月1日、8日、15日金曜日の午後4時から5時半を予定している。

部会長 ・この部会が主催となるので協力をお願いしたい。自法人から積極的に派遣してほしい。行政の若手の方も参加されていっしょに勉強できるいい機会となっている。

部会長 ・(1)を進めるにあたり、学生の最新状況を知りたいと思って、華頂大学武田先生に学習会の打診を事務局からしていただいている。次回の部会で時間をつくりたい。武田先生からの情報もふまえ「乙訓モデル」をどうしていくか考えていきたい。

事務局 ・武田先生は火曜日がいいと聞いている。9月の第2回の部会で設定したい。

部会長 ・9月7日ではどうか。みなさん、仮で予定をおさえてほしい。改めて案内をするが、先生への質問等を考えておいてほしい。

部会長 ・このように今年度進めていきたいが、もっと必要なことなどあればお伺いしたい。

委員 ・長岡京市の障がいと高齢部門で、中学生の職場体験時に福祉の仕事を紹介するために「だれかを照らすフクシゴト」というちらしを初めて作成した。コロナの関係でどうなるかわからないが計画している。

部会長 ・長岡京市はいろいろな企画をされているのでこの部会でも共有したい。

委員 ・私の事業所では無資格、未経験の採用枠を設けている。採用後に初任者研修等を受けてもらう必要があるが、各法人は資格取得にむけてのサポートはどうしているか教えてほしい。

委員 ・事業所が、正職のケアマネ更新は全額負担、介護福祉士と社会福祉士は2分の1負担しており、介護福祉士は上限5万、社会福祉士は上限10万となっている。実務者研修は上限5万円補助している。ただし介護福祉士と実務者は入職後1年勤務してからにしている。ヘルパーは初任

者研修がないと活動できないので無資格の方でも上限5万円の補助を出し、1年間は仕事を続ける誓約書を書いていただいでいく制度を今回つくって全戸配布したがなかなか効果がなかった。

委員 ・介護福祉士の受験推奨ということで受講費用を助成する制度をつくっている。京都府社会福祉協議会でも助成制度があるが、それに申し込んだがもれてしまった方があれば法人で貸付し、2年間勤務で免除している。助成するからには福祉の仕事が続けてもらいたい。福祉系の資格を働きながら取得した場合、お祝い金として受験料を支給する等している。

部会長 ・私の事業所も、3福祉士と保育士、ケアマネ等資格を限定し、事前の申請をして資格取得段階でかかった費用を支払っている。上限が10万円ぐらい。正職は初任者研修が必須ではないかということで、持っていない職員は事業所が費用負担するので取りにいくようにしている。配属によって不平等感があり修正が必要かと思うがそういう制度にしている。

・資格について気にしている学生も多いので、入職後の取得について手厚くすることも大事だ。

・京都府福祉人材サポート事務局には京都就活サポートプログラムというのがまた別にある。学生対象でこのプログラムの中で初任者研修を受けることになり働く前の予備知識が得られる。ここから採用すれば就職の時点ですでに初任者をもっている人がある。京都府もいろいろとやっているの混乱するが、案内をしっかりと見て、事業所側としてうまく使いたい。

部会長 ・他、何かあるだろうか。なければ、第2回は華頂大学の武田先生に9月7日学習会の講師を承諾いただければそれをもって部会とする予定なのでよろしくお願ひしたい。これで終了する。